



確かな学力の向上をめざして【11月】

■みんなで進める校内研究 ～日常の実践に繋げるために～

“1人の10歩前進よりも、10人の着実な1歩前進を”

校内研究で確かな成果を上げていくために、大切にしたい考え方です。そのために、めざしていくものを全員で共有し、全員で実行していけるような取組をつくっていくことが求められます。各学校で行われている様々な取組や独自の工夫等の中から、2校の取組をご紹介します。

★日常の実践に繋げる研究協議会の例 ～上小鴨小学校の事例～

一人一人が主体的に授業研究会に参加し、そこで明らかになった課題をもとに、明日からの具体的な取組を見出していくために協議会の流れを工夫しています。



ホワイトボードミーティングの手法で行います。

★グループ協議で「**代案をつくる**」：参加者一人一人が、授業の代案を発表し合います。示された代案と本時の授業とを踏まえて、グループでよりよい授業の代案を検討・作成した後、全体で共有します。

★協議会のまとめで「**合言葉を決める**」：研究会を通して明らかになった“課題”と今後の“具体策”について、短い言葉にして短冊に記入します。それらをもとに、明日から全員で取り組んでいくことを「合言葉」にまとめて、共有します。（職員室に掲示！！）

「自分ならどう授業するか」を考えながら主体的に参加できる事例です。明日からの取組を「合言葉」にして共有することは、日常的な取組を全員で実行していくきっかけになりますね。



★成果指標で取組の現状を評価し、日常の授業へと繋げる例 ～河北中学校の事例～

明確な観点を持って研究の進捗状況を振り返り、日常へ繋げていく体制が整えられています。

★研究テーマや本年度の重点目標に沿って作成した「**授業作りアンケート**」を学期ごとに実施します。

★結果をもとに**各教科での振り返り**を行い、次学期の授業づくりにおける**具体的な取組を見出し、教職員で共有**しています。

★昨年度の結果とも比較しながら、数値の伸びている部分や依然評価が低い部分等を分析し、さらなる改善へ繋がります。

【アンケート項目】（授業づくりアンケートより）

- ①導入で、生徒の興味関心を引きつけているか。
- ②生徒が追究したくなるような課題を設定しているか。
- ③生徒をいきいきと活動させるための教材・教具の工夫をしているか。
- ④授業の流れ（学び時計）を示しているか。
- ⑤授業の目標（めあて）を示しているか。
- ⑥『個の自力解決』の時間がしっかりと確保されているか。
- ⑦単元構想を意識した『自己学習カード』を作成し、活用したか。
- ⑧家庭学習の工夫に取り組んだか。

A：毎時間できている B：50%以上できている C：50%以下の取り組み
D：全くできていない。次学期取り組みたい。

学校全体の傾向や個々の課題が見えてくるので、改善に向けた取組も具体的になります。こうした**PDCAのサイクル**を学期ごとに繰り返すことで、先生方の意識や授業が変わっていくのですね。



「確かな学力」バックナンバー紹介 ④「平成30年度3月号」 「令和元年度12月号」
校内研究の“まとめ”と来年度の“計画”を立てる時期に入っていきこれからだからこそ必見！！
※中部教育局HP (<https://www.pref.tottori.lg.jp/chubukyoku/>) でも閲覧できます

